

シノサハリンスク支局のエフゲニー・シャバシヨフ助手は、島内古釜布(ユジノクリーリスク)の港を訪れた。

「日本との経済協力? まだ想像がつかないけど、日本が水産加工場を建て、私たちが海産物を提供できる仕組みができれば悪くないね」。漁船の機関士アルカディー・スベトロフさん(43)は強調した。火山などの景勝地が多い

島丹 色丹 洞・斜

「山口での首脳会談をユースで見たわ。島には農業がないから、子供たちのためにも新鮮な野菜や果物をつくってほしい」北海道新聞ユジノサハリンスク支局のマリヤ・プロコフィエワ助手が16日に訪れた島内穴洞(クラボザボ

は日本との経済協力が高い関心を示し「早ければ早いほどいい」と実現を待ち望んでいた。島内では、日ロ両政府が共同経済活動の協議を開始することについて「日本が受け入れられる特別なルールをつくってほしい」(50代女性)との声がある一方、「一番大事なことは、ロシアの法律に基づいて行うことだ」(40代女性)との指摘も根強い。

島内斜古丹(マロクリーリスコエ)でスーパーを営むチアデーシダ・グリゴリエンコさん(66)は「島が(日本に)引き渡される最初の一步にならないか」と懸念する。斜古丹の図書館で勤務する33歳の女性は、ロシアの有名な言葉を引き合いに出して、共同経済活動の実現に疑問を呈した。「二つの台所に2人の主婦は立てない」



①漁船が停泊する国後島古釜布の港。16日(エフゲニー・シャバシヨフ撮影) ②色丹島斜古丹の中心部。島内には日本との共同経済活動に歓迎ムードが広がっている。16日(マリヤ・プロコフィエワ撮影)

首脳会談 識者の評価は

成果ゼロ 国民は失望

和田春樹・東大名教授(ロシア・ソ連史)の話 北方領土問題について具体的な進展があると期待していたが、事実上、成果はゼロだった。これまでに15回も会談を重ね、今回は満を持して安倍晋三首相の地元山口県でプーチン大統領を迎えたのだから、北方四島の帰属問題の話に切り込んでいく最大のチャンスだった。国民の失望は大きい。現実的な解決策は、日ソ共同宣言に基づいた(色丹、歯舞、2島返還を受け入れ、残り2島はロシア領だと認めること)しかない。ロシア側も2島の代わりに経済協力を引き出せば、国民を納得させることができたはずだ。安倍氏もそれを考えたはずだが、国民の支持を失うと恐れ、結局腹をくくれなかったように見える。プーチン氏も問題解決に向けた興味を失っているように感じた。共同経済活動は日本とロシアとどちらの法律を適用するのかなどについてあいまいなままだ。日本は、一層厳しい状況に置かれた。

ロシアの主権守った

ビクトル・クジミンコフ・ロシア科学アカデミー極東研究所日本研究センター上級研究員の話 安倍晋三首相とロシアのプーチン大統領は北方四島での「特別な制度の下での共同経済活動」に関する協議を開始することで合意した。両国の法的立場を害さずに合意したことに大きな意義がある。プーチン大統領にとっても北方四島の主権を守りつつ、経済協力を得たという点で訪日はまずは成功だったと言える。ロシアはウクライナ危機をめぐり欧米の制裁下にあるが、G7(先進7カ国)の一員である日本を訪問し、首脳間である程度の合意が成されたのは国際的に孤立していないということを示す機会になった。ロシアはまだ当然、北方領土の主権は譲らないだろう。しかし、四島での共同経済活動は日本にとって悪い話ではない。この形であれば、日本もある程度四島で活動できるし、ロシアの主権も損なわれない。(モスクワ時事)

首脳経



荣誉礼

首相官邸で荣誉礼。プーチン大統領と安倍晋三首相。

首脳会談ドキュメント

日ロ首脳会談を巡る15、16日の動きを追った。
【15日】
9時37分 安倍晋三首相が羽田空港で記

【16日】
9・00 首相が大谷山荘を出発
10・32 大統領が大谷山荘を出発
10・43 首相の政府専用機が山口宇部空港を出発
11・42 首相が羽田空港に到着
11・59 大統領が特別機で山口宇部空港

